

## ～今シーズンのRSウイルス感染症について～



### <患者報告数の推移>

全国的にRSウイルス感染症はこれまで冬期に報告数のピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いていましたが、2011/2012シーズン以降は早い時期から報告数が増加しています。

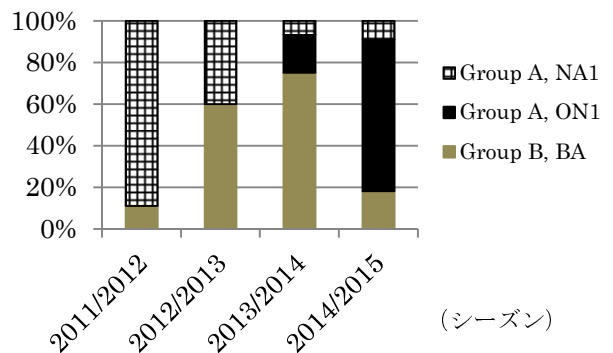
奈良県の今シーズン（2014年8月以降）の報告数も、9月初旬の第36週（9/1-7）から増加し始め、第51週（12/15-21）が最も多く、第7週ではピークを越えたものの定点当たりの患者報告数は0.68人とやや多い状況です。特に桜井保健所管内や郡山保健所管内で報告数が多くなっています。

### <ウイルス検査報告>

昨年の“保健研究センター10月だより”では、2013年の9月から11月中頃に中部地域の医療機関から提供された検体で、これまで検出していなかった**変異型ウイルス:ON1**を検出したことについて報告しました。

（ON1はRSウイルスA型の亜型であるNA1の遺伝子変異型で、近年報告され始めている型です。）

図は、その後の調査を含めたシーズン別の遺伝子型分類を示すものです。ON1に注目すると、初めて検出した2013/2014シーズンでは陽性数全体で占める割合は18%でしたが、その後の2014/2015シーズンには**73%に拡大**していました。しかし、プロトタイプNA1（野生型）も少数ながら検出しており、全てがON1に入れ替わったわけではありませんでした。



(図) RSウイルスのシーズン別遺伝子型解析

(表) ON1の患者情報

今シーズンに検出した8株の変異型ON1の患者情報を表にまとめました。臨床診断はRSウイルス感染症が7件、気管支炎が1件です。患者は全て3歳児以下で、症状は全員が下気道炎を呈し、一部では細気管支炎

採取日	年齢	発熱(°C)	症状
10/27	1歳1ヶ月	39.1	下気道炎(肺炎)、脱水、入院あり
10/27	0歳1ヶ月	38.3	下気道炎(肺炎)
11/7	0歳10ヶ月	39.0	上気道炎(咳・鼻汁)、下気道炎(気管支炎)
11/11	3歳3ヶ月	38.5	下気道炎(気管支炎)
11/14	2歳6ヶ月	39.0	上気道炎(咳・鼻汁)、下気道炎(気管支炎)
11/17	0歳11ヶ月	39.0	上気道炎(咳・鼻汁)、下気道炎(気管支炎)
11/25	0歳1ヶ月	36.7	上気道炎(咳・鼻汁)、下気道炎(細気管支炎)、入院あり
12/10	0歳9ヶ月	38.5	下気道炎(気管支炎)

や肺炎の診断で入院した患者もいました。NA1やBAでは上気道炎症状のみで軽症の場合もあることから、現在までのところ、ON1の方が重症例がやや多い印象があります。患者検体は、奈良市保健所、郡山保健所および葛城保健所管内から提供されたもので、奈良県北部および中部地域で流行していたことが分かりました。

今後、この変異型ON1が定着し全てのA型がON1に置き換わるかどうかについては、さらに調査を続けるとともに、従来のウイルスと臨床的な差異があるか否かについての検討も必要であると考えています。

(ウイルス・疫学情報担当)